

スマートメーター導入に向けた 取り組み状況について

当社は、現在、「総合特別事業計画」（2012年5月9日公表）に基づき、「スマートメーターの国内外からのオープンな調達・導入拡大」および「スマートメーターを活用した家庭等を対象とする新たなサービスの展開」に向けた取り組みを進めております。

本年5月に通信システムおよび運用管理システムのパートナーを決定し、10月には2014年度設置分（主に60A計器）の入札説明会を行い、本日、入札を実施いたします。

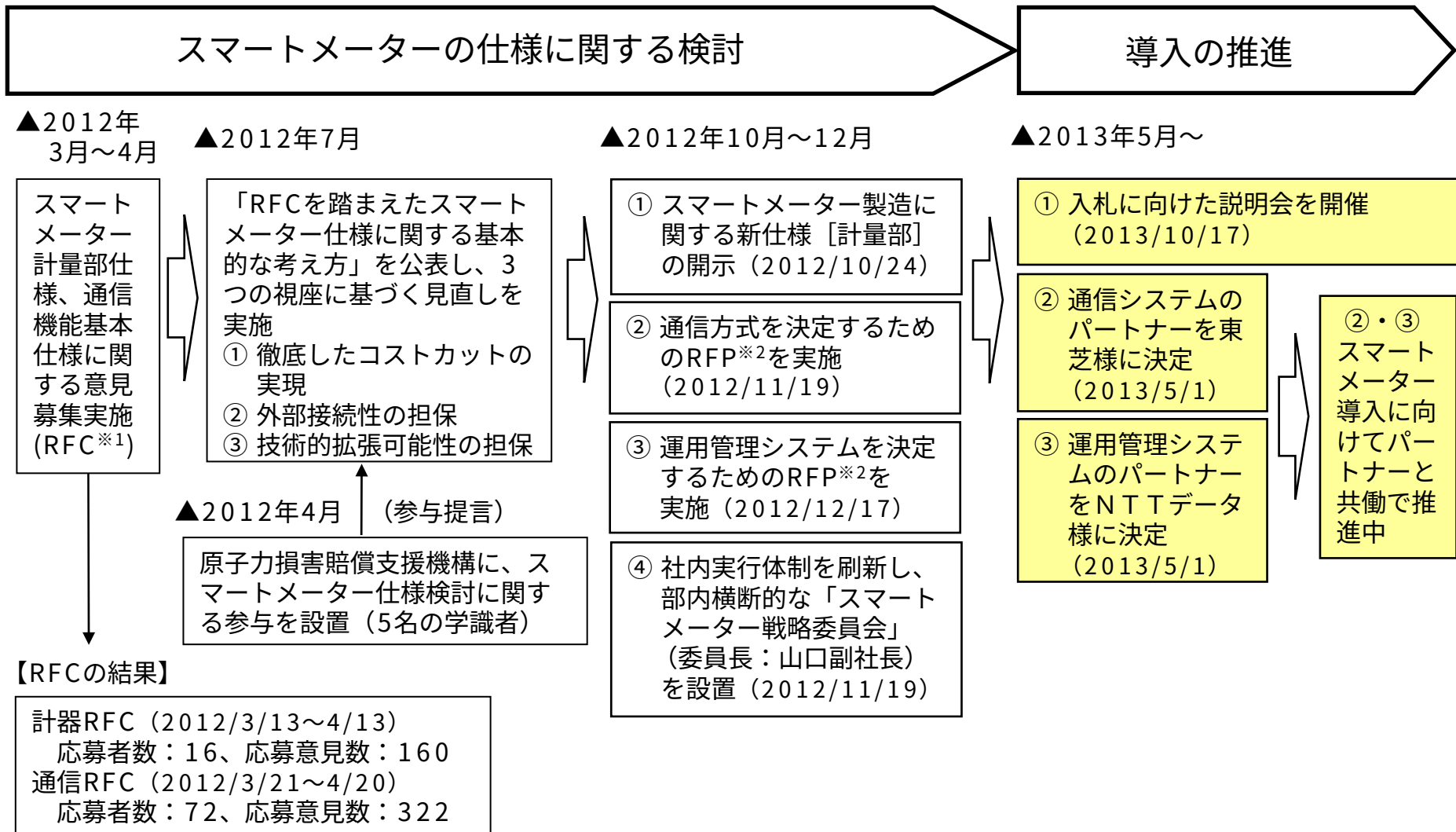
また、導入効果の早期実現に向けて、10年間（2014～2023年度）で当社サービスエリアの全てのお客さまにスマートメーターを設置する従来計画を3年間前倒しし、7年間で設置することとしました。

当社は、今後、信頼性と拡張性の高いスマートメーターインフラを構築することで、お客さまの使用形態に応じた多様な料金メニューの設定や、よりきめ細かな省エネ支援などを通じ、お客さまの電力料金のご負担軽減や暮らしのお役に立つサービスの提供などに引き続き取り組んでまいります。

2013年11月 7日
東京電力株式会社

スマートメーター導入に関するこれまでの経緯

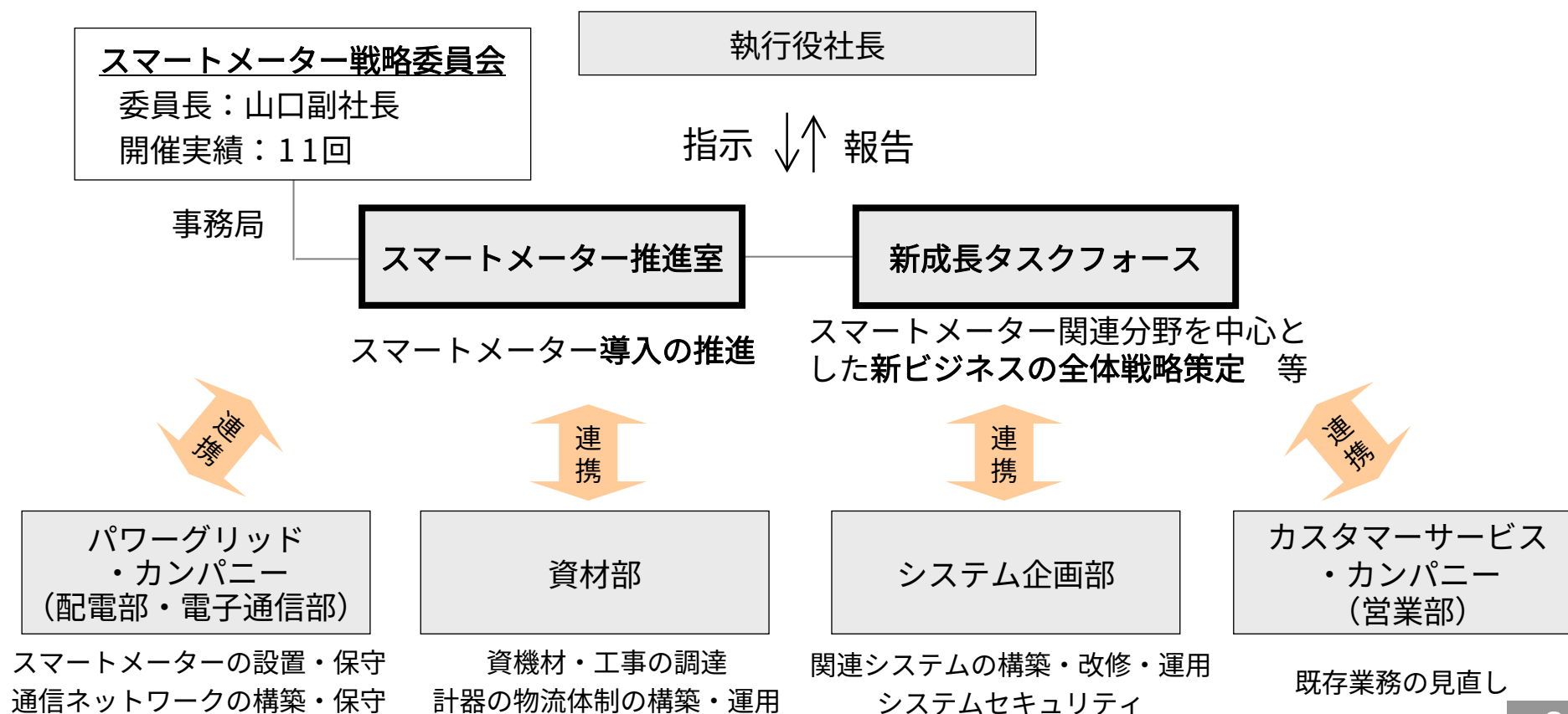
- ◆ 原子力損害賠償支援機構と東京電力は、「総合特別事業計画」に基づき、スマートメーターの国内外からのオープンな調達・導入拡大に向けた取り組みを進めております。



※1 RFC: Request For Comment ※2 RFP : Request For Proposal

スマートメーター導入推進に向けた組織体制の構築

- ◆ 2012年11月19日、スマートメーターの調達・展開を、全社最適の観点を踏まえて円滑に実現するため、「スマートメーター戦略委員会（委員長：山口副社長）」を設置。
- ◆ 2013年5月1日、徹底的なお客さま目線で、スマートメーター導入後の新たな電気事業の在り方や新たなサービスを検討するため、「新成長タスクフォース（タスクフォース長：廣瀬社長）」を設置。
- ◆ 2013年7月1日、スマートメーター導入のさらなる推進および、パワーグリッド・カンパニー等の関係部門との連携強化のため、「スマートメーター推進室」を設置。



通信システムおよび運用管理システムのパートナー企業の選定

◆ 2013年5月1日、技術的要求条件を満足することを前提に、以下の要素も考慮し、戦略委員会の審議、機構参与との審査会等を経て、パートナー企業と基本合意しました。

- ・「R F Cを踏まえたスマートメーター仕様に関する基本的な考え方」（2012年7月12日公表）を踏まえた提案となっていること
- ・適材適所の通信方式に対する考え方、セキュリティ対策、プロジェクトマネジメント体制、更なるコストダウン、新サービスへの活用可能性等の拡張性を兼ね備えた提案となっていること

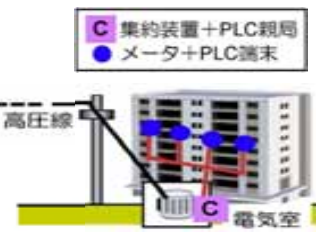
＜スマートメーター用通信システム＞

東芝	通信方式を決定し、ネットワーク構築を担うパートナー事業者
従来仕様からの 変更ポイント	【従来】 光ファイバーをサービスエリア全域に自前で敷設し、無線マルチホップ方式のみで通信。 【今回】 他社インフラを活用し、3つの通信方式※を「適材適所」で最適に組み合わせ。顧客や地域特性に応じた可変性・拡張可能性を最大限担保。国内・海外への応用も視野。

＜運用管理システム＞

N T T データ	メーターデータ処理のシステム構築を担うパートナー事業者
従来仕様からの 変更ポイント	【従来】 自動検針のみのシステム。 【今回】 新ビジネス対応や自由化後の他社への情報提供も踏まえた拡張性の高いシステム。

※ 3つの通信方式

無線マルチホップ	電力線通信（P L C）	携帯
メーター間をホップして通信。高密度の住宅地などに最適。 	電力線を用いた通信。マンション・ビルなどに最適。 	3 GやL T Eを用いた通信。郊外や低密度の住宅地に最適。 

2014年度設置分の入札説明会を開催

- ◆ 2013年10月17日に入札説明会を開催し、本日、主に60A計器を対象に入札を実施。
120A、30A計器については12月以降に入札予定。

<入札説明会概要>

日時：2013年10月17日（木） 10:00～11:30

参加企業：2014年度設置分に入札参加予定のお取引先7社（うち外国企業3社）

説明内容：契約期間、数量および入札スケジュール・方法の説明、質疑応答 他

・入札日：2013年11月7日（木）16:00～17:00

・入札対象品目：60A

・入札数量：約114万台

※入札後は入札結果を踏まえた価格交渉を経て、落札企業を決定
（2013年11月中旬～下旬目処）



<2014年度設置分のスケジュール*>

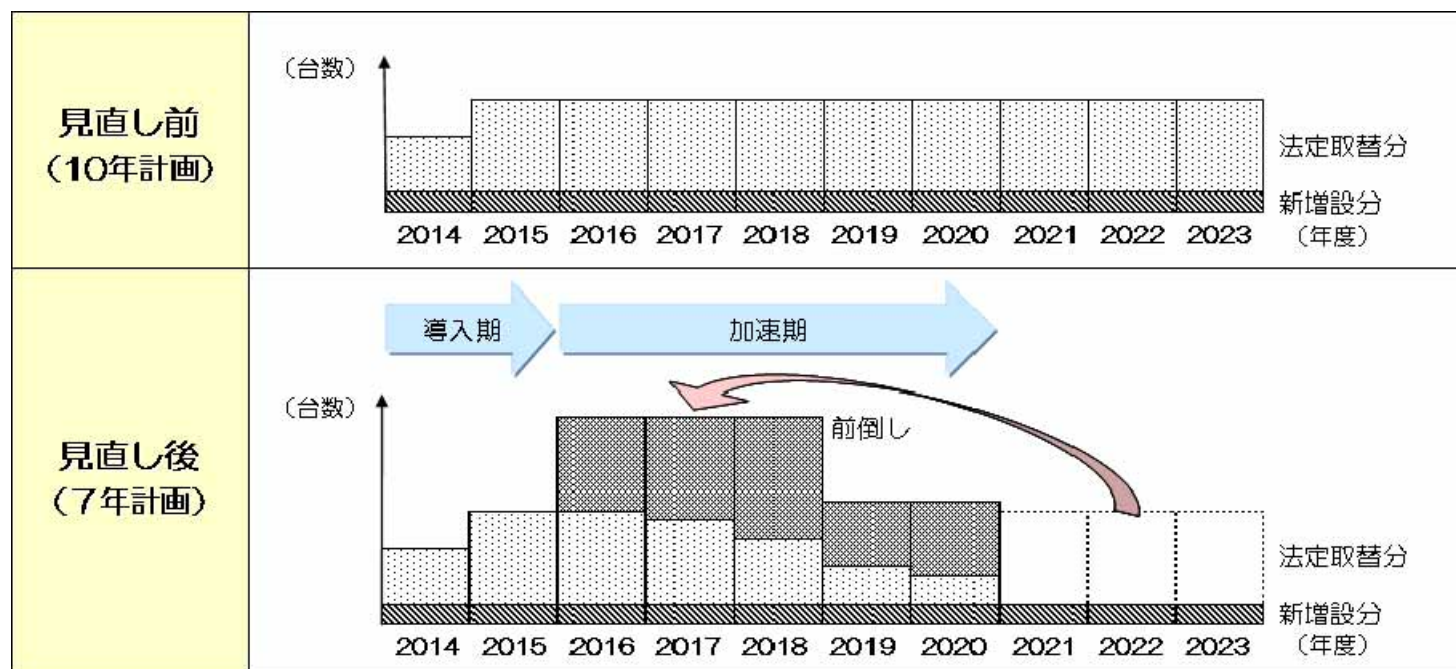
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
60A：約114万台 （設置対象：多くのご家庭など）	▼ 説明会	▼ 入札 ↔ 落札企業決定				
120A：約19万台 （設置対象：比較的小規模な事業所・商店など）		▼ 説明会	▼ 入札 ↔ 落札企業決定			
30A：約57万台 （設置対象：部屋数の少ない集合住宅など）					▼ 説明会	▼ 入札 ↔ 落札企業決定

*120A、30A計器の入札台数、スケジュール（説明会・入札時期など）は予定

サービスエリア全域へのスマートメーター設置計画の前倒し

- ◆ スマートメーター導入効果の早期実現を目指し、検定有効期間（10年）満了に伴うメーター取り替えに合わせ、10年間（2014～2023年度）をかけて設置する方針から、2020年度までの7年間で、サービスエリア全域に設置する方針に見直しました。
- ◆ 前倒しについては、導入初期の安定稼働実現に対して配慮が必要なことから、導入期と加速期に分けて設置を進めていきます。

<設置計画の前倒しイメージ>



【導入期】世界的にも例がない“無線マルチホップ、電力線通信（PLC）、携帯”の適材適所による大規模システムであることから、取付からメーターデータ管理運用開始の2年間で累計510万台規模の安定稼働確保に全力で傾注。

【加速期】安定稼働確認後は設置を加速してまいります。2016年度以降の具体的な設置計画については現在精査中。

設置計画の前倒しによって期待される効果

- ◆ 計画前倒しにより、お客さまにスマートメーターを活用した様々な機能や新たなサービスを、より早く体感いただけるよう取り組んでまいります。
- ◆ 加えて、以下の経営効率化・合理化も早期に実現できると考えております。

<期待される効果【お客さま】>

- ・ 多様な料金メニューからお客さまの使用形態に応じたメニューを選べる
- ・ よりきめ細かな省エネ支援などを通じて、お客さまの電力料金のご負担軽減や暮らしのお役に立つサービスを選べる

<期待される効果【当社】>

- ・ 自動検針やアンペア容量の変更などの効率化による人件費や委託費の抑制
- ・ デマンドレスポンスによる需給対策への対応や設備投資の抑制

<業務効率化のイメージ>

検針員による検針

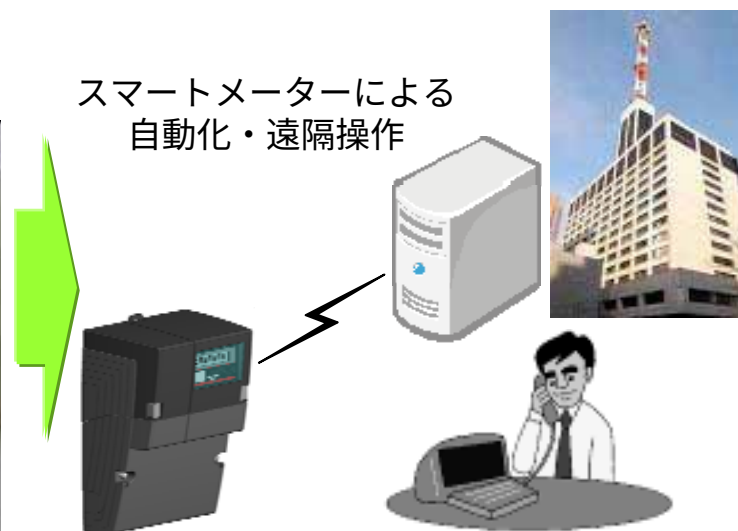


契約変更時の
ブレーカー取替

電気の使用開始・
解約作業



スマートメーターによる
自動化・遠隔操作

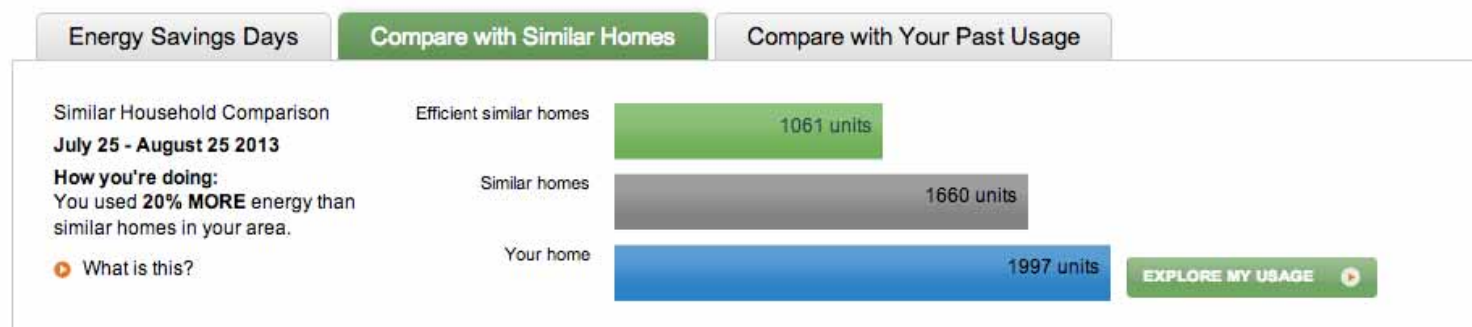


オーパワー社との業務提携による「でんき家計簿」のサービス拡充

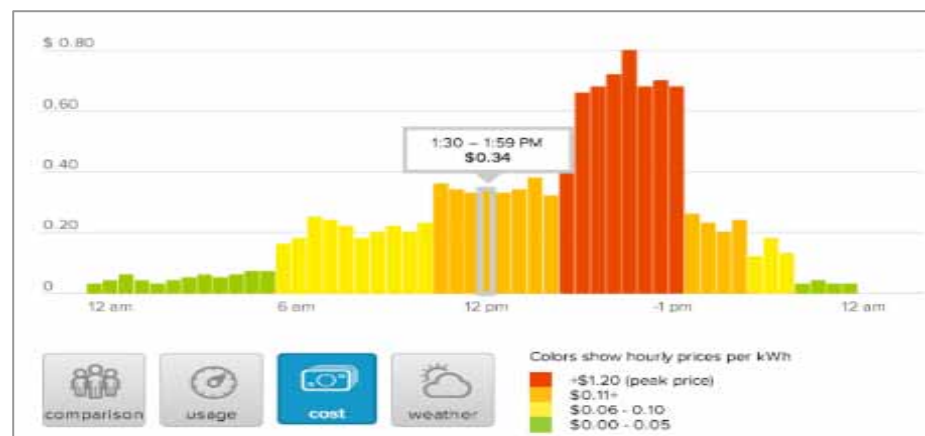
- ◆ 2013年10月28日、無料会員制インターネットサービス「でんき家計簿」のさらなる機能充実に向け、米国オーパワー社との業務提携を締結しました。
- ◆ 本提携により、同社の持つ世界最先端のエネルギーデータ解析技術・提案ノウハウを活用し、2014年7月以降、「でんき家計簿」を通じて、毎月の電力使用状況をより分かりやすく見える化するなど、会員向けの新たなサービスを順次ご提供してまいります。

<新たなサービスの一例（イメージ）>

- ・ 契約容量、住宅形態、世帯人数などが類似するご家庭との電気使用量の比較



- ・ 日単位／時間単位で気温と比較した電気使用量および料金の見える化（スマートメーターが設置されたお客さま向けのサービス）



「でんき家計簿」の会員登録（無料）は随時、当社ホームページより受付しております。

<http://www.tepco.co.jp/kakeibo/>